

エッセイ

第9回公募ステンドグラス美術展 審査員特別賞受賞
後藤 栄さん “こころ”



公募展に向けて作品に取り掛かったのは、3月頃でした。構想も思いつかなくて、ただ色んな絵を見たりデザイン画を書いたり何事もまとまらない毎日が続きました。ある時、フラワーショップでミニカトレアの小さな花を見つけあまりに可愛いので買ってしまいました。花の色はピンクとオレンジのグラデーションでした。その色を眺めている内に思いつきました。この色のガラスを探そうと・・・やっと見つかりました。ガラスを眺めている内にデザインを思いつき、全体の構成も完成しました。後はいつもの作業です。構想を練るのは一番大変だけど一番楽しい工程でもあります。それから、入選はおろか入賞の知らせを戴き、この私が???なぜ私の作品が????等いろいろ思いました。でも、今は感謝の気持ちで一杯です。とても名誉な事でした。これからは、又、初心に戻ってもっと勉強し、もっと今よりいい作品を制作したいと思っています。

後藤 栄 (stained party)

豆知識

会場となった京都文化博物館別館は 1906 年に開設された旧日本銀行京都出張所の建物で 1969 年に国の重要文化財の指定を受けました。設計は東京駅を手掛けた辰野金吾と日本建築士会初代会長の長野宇平治によります。建築デザインは 19 世紀のイギリスでよく使わ

れたクイーン・アン様式が用いられ、内部の吹き抜けや 2 本の大きな柱、カウンターのスクリーン、ドーマーから取り入れた自然光が照明となる天井の窓は当時の最先端の建築物でした。



臨時総会

2009 年 10 月 19 日(月)京都文化博物館別館において臨時総会を開催し、今後の計画についての話し合いがなされました。2010 年の総会は 3 月 11 日(木)銀座教会東京福音センターにて開催することとなりました。2010 年の事業計画としてダルの講習会を実施するため具体的な準備を進めていくことにしました。2011 年の東京展に続き仙台での巡回展開催の可能性について今後検討していくこととなりました。作品展の搬入、設営前の僅かな時間ではありましたが、全国から会員の多くが集まる機会であり、作家協会として展覧会を計画していくにあたってマンパワーや費用負担、開催場所の選定をどう考えるのか、目的に沿ってどう活動していくかについて問題提起がなされた臨時総会でもありました。

前夜祭

搬入、設営を済ませて夕方からの懇親会。今回の展覧会に出展していただいたゲスト作家の皆さま、サゴバン・ハングラス・ジャパン株式会社、田中アートグラス株式会社、がらすらんど株式会社の方々を交えて京都の味を堪能しながらの楽しいひと時となりました。

ホームページのご案内

アドレスはこちら



<http://jsgaa.org/>

本協会への入会、お問い合わせは事務局及び各会員までお願いします。

発行日 2009 年 12 月 1 日
発行者 日本ステンドグラス作家協会
(事務局) 〒165-0034 東京都中野区大和町 3-20-1-701
林 晶子 (A 工房)
編集者 〒841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町 1589-3
櫻井 由美 (ステンドグラスガジオ Ys COMET) Tel.0942-84-5546

日本ステンドグラス作家協会

Japan Stained Glass
Artist's Association

日本ステンドグラス作家協会
会報誌

JSGaA

第3号
第3号

2009年12月 Vol.3



水の響 Akiko Hayashi

会長 三浦啓子 (株式会社ロケールポダクション)

秋の光の中でさまざまな国際芸術展が京都で繰り広げられています。

その中で、私たちの第一回 日本スタンドグラス作家協会展 “感動” を、京都文化博物館で開催いたしました。

6日間で5000人近い来館者があり、数多くのメッセージを戴きました。

これらのお言葉に感謝するとともにあらためて今後の芸術の方向性を見た思いをいたします。

人間は、一体何のために芸術を必要としているのか？

私は、この展覧会を催して大きな課題を課せられたように思います。

果たしてどれだけの人々の心に衝撃を与えること出来たでしょうか。

私は、この衝撃こそ芸術の真髄、永遠の真理への道だと思います。

心の底に衝撃の種が植えられ、それが芽を吹き自力、勇気、希望となって実を結ぶと信じています。

芸術こそが、唯一人間に与えられた希望なのです。

精進いたしましょう。このような素晴らしい分野で繋がった我々は、なんて幸せなことでしょう。

私達をサポートして下さっている皆様！皆様のお陰で私たちは、制作に精進できるのです。

今後とも宜しく願いいたします。

展覧会レポート

JSGaA日本スタンドグラス作家協会展 京都2009 テーマ「Emotion 感動」

2009年10月20日(火)～25日(日) 京都文化博物館別館で日本スタンドグラス作家協会が主催する初めての展覧会を開催することができました。この時期の京都は時代祭をはじめ観光を兼ねて秋の京都を楽しんでいただくのにもよく関西だけでなく遠方からも大勢のお客様にご来場いただきました。一般来場者の方はもちろん、アマチュア、プロを問わずスタンドグラスに携わる方々が高い関心をもって一つ一つの作品を熱心に見て下さったことは今後の私たちの制作活動により刺激となって更に **Emotion 感動** へと繋がっていくことでしょう。次回2011年の東京展に向けて新たなスタートです。



期間中の来場者数 合計 4,402名

10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25
700	664	768	634	864	772

この度の展覧会の開催に際しご協力いただきましたガラス関連の事業会社様に改めて感謝申し上げます。



ご来場者のご意見・ご感想

☆初めてスタンドグラスを間近に見てびっくりする程きれいだった。パッと目を惹く色使いのものもよいが、色を抑えたシンプルな作品はじっと見ても飽きない。いつまでも眺めていたい。

☆ガラス選びの参考になると思い来館しました。個性的な作品が多いと感じました。

☆細かい作業が丁寧になされている。素晴らしい作品ばかりだ。
☆材料に鉛が使われていることは環境問題としてこれからどうなのでしょうか。

☆様々な技法を凝らした作品を一度に見ることができ見ごたえがあった。作品に合わせたディスプレイや専用のベースや木枠等のトータルでの見せ方にもそれぞれの工夫が感じられた。

☆シンプルな形こそ半田付けの美しさ、技術力は素晴らしいと感じた。独創的な作品も多く、発想力はすごい。

実行委員から

“京都2009”を終えて
個展とは違い、協会で開催する作品展となると、開催するための仕事の内容や量、意味合い、重要性も変わってくる。また、主催側の人数が多い分、責任も分散しそうだが、規模が大きくまかされている仕事である以上、かえって責任も重くなっていく。解ってはいたはずのことだったが、やはり大変な作業だった。設営を無事に迎えられた日は、実行委員の二人とも、すでに疲れはピークかと思われた。なんとか乗り切れたのは、メンバーの皆さんが集まってきてくれたおかげである。正直言って、最初に考えて実行しようと考えていたことの70%くらいしか、実行できなかった。時間切れと体力の限界ある。とはいえ、重要な部分は、ほぼクリアーでき、なんとか満足のいく出来だったと思う。でも、1か月近く経った今も、すべての作業は終了していない。すべてを振り返って、考察し、反省し、今回生まれた人との縁を大切に、未来につないでいくための大事な作業が終わっていないから。もう、ひと頑張りしますので、皆さん、よろしくお祈りします！

初めての作家協会展を終えて
何ができるわけでもなく、京都在住というだけで、”京都2009“の実行委員に任命され、『みんなお互いさま、出来る事を出来るようにする、ちょっとだけがんばろう』とお引き受けしました。大役でしたがこなせたのは、実行委員の二人で話し合いながら進められたからのような気がします。そしてその事がとても大きな私の財産になりました。実行委員は、”京都2009“を大きな事故もなく無事に終えることを第一に、次は作家協会として恥ずかしくない第一回にすること、そして更には、次につながるものに出来るように活動してきました。

終わってみてほっとしましたが、やはり出来なかったこと、もうひとがんばり出来たのではないかと反省があります。皆さんの感想はいかがでしょう？ 又、実行委員は大変だったけど、得るものも多かったような気がしているのですが、会員の皆さんにとっての得たものは何だったのでしょうか？得るものの少ない、ただ出席するだけの会になってしまっていたとしたら、本当に申し訳ないと感じます。一つ一つの行事が私達を育ててくれます。一つの出来事がステップアップの機会になるような作家協会展になったのだろうか。これは終わったからこそ出てきた思いです。自己満足の総括ではなく客観的な総括をしなくては・・・と叱咤するこの頃です。